職業選択における親子間での
モデリングに関する研究

服部ゼミナール　学籍番号 1335014

小久江紗耶

目次

第 1 章：研究関心と先行研究のレビュー・・・・・・・・・・・2
1-1.研究関心
1-2.本稿の構成
1-3.先行研究のレビュー
1-3-1.モデリングについて
1-3-2. 職業選択における親子間の影響に関する研究
1-4.研究課題の設定

第 2 章：調査対象と調査方法・・・・・・・・・・・7
2-1.調査対象
2-2.調査方法
2-2-1.ヒアリングシートの配布
2-2-2.対面でのインタビュー

第 3 章：分析結果・・・・・・・・・・・9
3-1.(A)完全継承
3-1-1.⑪YT の場合
3-1-2.②SW の場合
3-2.(B)部分継承
3-2-1.ライフスタイルに関わる部分継承（③YD の場合）
3-2-2.ワークスタイルに関わる部分継承（⑤YK の場合）
3-3.(C)教訓
3-4.(D)反発
3-5.(E)無関心
3-6.追加分析

第 4 章：考察・結論と含意・・・・・・・・・・・27
4-1.考察
4-2.結論
4-3.理論的含意
4-4.実践的含意
4-5.今後の課題

参考文献一覧・・・・・・・・・・・31

第１章：研究関心と先行研究のレビュー

1-1.研究関心

「子どもは親の背中を見て育つ」とはよく言うが、例外なく筆者もそのうちのひとりなのだということを、自分の就職活動を通して実感した。

筆者の両親は筆者が幼いころから毎日仕事をしており、二人が共に働く姿をずっと見てきた。物心がつく年齢になると、自分が恵まれた家庭環境にいたことを自覚し、またその根源には両親の共働きという大きな支えがあることにも気がついた。それゆえいつの間にか、「男も女もライフイベントに関係なく働き続けるものだ」という考え方が自分にとっての常識になり、就職活動も「両親が自分にもたらしてくれた安定した生活を手に入れるために」という軸をもとに行った。

しかし、誰もがこれと同じ考え方ではなく、自分の好きなこと・やりたいことを追いかけて職業選択を行う者も多い。職業選択において親に絶大な影響を受けた筆者と、自己の関心を追求する彼らとの間には、これまでの人生にどのような違いがあるのだろうか。少なくとも人生の大半を親とともに過ごしている以上、親の存在は子供にとってなんらかの影響を与えていると考えている。では、彼らはどのような形で親の影響を受けているのだろうか。

本稿では、大卒者の卒業時点での職業選択の場面において、子どもはどのように親をモデリングするのか、またそのモデリング行動にはいくつのパターンが存在するのかを解明していきたい。具体的には、就職活動を直前に控え将来について本格的に考え始める大学３年生と、就職活動を終えた大学 4 年生を対象にインタビュー調査を行うことで、この課題を検討する。

1-2.本稿の構成

本稿は、全部で４章から構成されている。第１章では、研究動機と本稿の構成、続いてモデリングに関する先行研究と、親の職業やライフスタイルが子の職業選択に与える影響に関する先行研究をレビューする。第 2 章では、職業選択という場面における親子間のモデリング行動を解明するための調査対象と調査方法が説明され、第 3 章ではその分析結果が示される。第 4 章では分析結果に対する考察及び本稿の結論、そして最後に含意と今後の課題点が示されている。

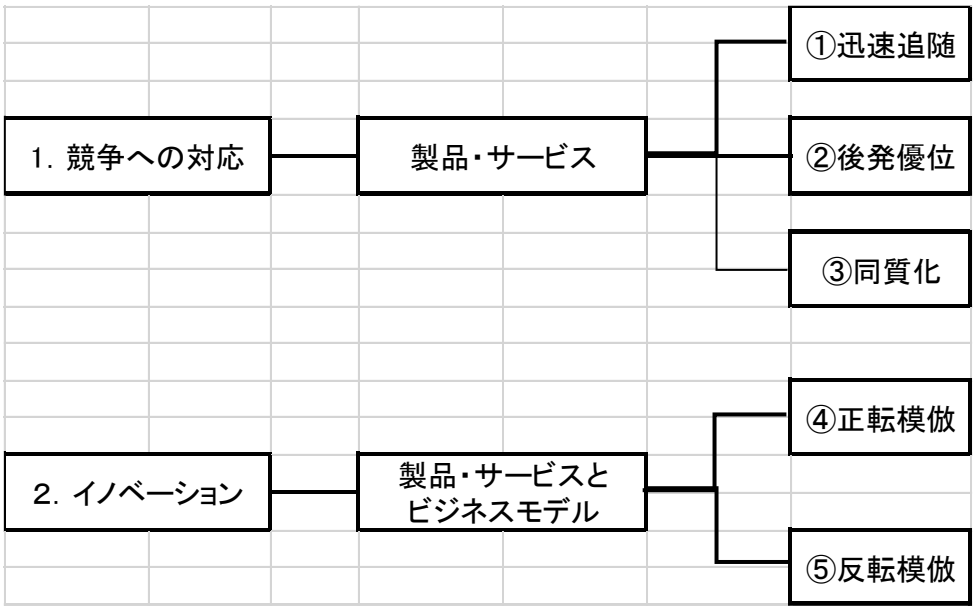
1-3.先行研究のレビュー

本稿では、「親子」や「家庭」という切っても切れない関係・環境がもたらす影響に着目し、特に職業選択という場面において、子どもはどのように親をモデリングするのかに迫っている。また、そのモデリング行動に作用する家庭要因は何なのかを解明することも本稿の目的の一つである。

1-3-1.モデリングについて

ここで、「モデリング」とは「模倣する」という意味であり、この言葉はしばしば経営学でも用いられている。井上(2012)は「模倣戦略のタイポロジー」で、ビジネスモデルの模倣により成功した実際の企業を例にモデリングのパターンを 5 つに分類している(図 1 参照)。競争への対応方法として 3 つ、さらにイノベーションを起こす場合の模倣として 2 つを挙げている。同業他社が成功すると予測し、他のどこよりも早く模倣する①迅速追随、後からでも先発を挽回できるほどの経営資源がある場合、意図的にタイミングを遅らせて模倣する②後発優位、ライバルに差を開けられることを極端に嫌い、横並びを狙う③同質化の 3 つが競争への対応方法である。異業種や地理的に遠い、いわゆる遠い世界をお手本に同じビジネスを起こす④正転模倣と、近い世界から全く逆の模倣をする⑤反転模倣の 2 つが、イノベーションを起こすための模倣という具合だ。

（図 1）モデリングの類型



井上達彦(2012),「模倣戦略のタイポロジー」,615 頁を参考に筆者作成

もちろん、本研究と井上の想定する対象の間には大きな違いがある。企業間の競争とは違い、親子間においては競争が存在しないため、他者との競争への対応に関わる前者の分類（迅速追随、後発優位、同質化）は、基本的には当てはまらない。子どもが自分の人生に新しい選択をもたらす「職業選択」というシチュエーションにおいてはむしろ、井上の分類のうち模倣の携帯に関わる後者の分類（つまり、正転模倣と反転模倣）が重要になる。たとえば子供がある職業を選択したとして、それが両親の職業をそのまま踏襲するものであったり、そのままではないにしてもかなりの程度共通性を持つものであったりする場合、その子供が両親の職業を正転模倣していることになる。他方、子供が両親の職業とは全く違うもの、

それとは正反対のものを選択した場合、その子供は反転模倣を行っていることになる。本稿ではこのモデリングの分類を参考に、さらに親の職業のどの部分（業種、給与、勤務地など）を正転模倣もしくは反転模倣しているのかを分析し、そこから、親子間におけるモデリングのパターン分けを行っていく。

1-3-2. 職業選択における親子間の影響に関する研究

続いて、職業選択における親子間での影響を研究した論文をいくつか紹介する。このテーマは多くの研究者が関心を寄せるテーマであり、複数の研究論文が残されている。角田(2010)は夫婦と子どもがいる家庭において、妻（母）が専業主婦であるか否かが、子どもが専業主婦家庭を志向するか否かに大きな影響を与えていること、さらにその影響の受け方には男女で違いが見られることを明らかにした。具体的には、男性の場合、自身が育った家庭と同じ形態を志向する割合が高いが、女性の場合、専業主婦家庭で育った者でも働き続けることを望む者が少なくないということが分かった。この研究では、対象とするモデリングは専業主婦家庭を志向するか否かに限定しており、またそこに作用する家庭要因も専業主婦家庭であるか否かに限定している。しかし、近年は女性の社会進出が多方面で推進されていることもあり、専業主婦家庭は減少傾向にあると推測される。「女性は結婚したら家庭に入る」という考え方がマイノリティーになりつつある現代では、専業主婦に焦点を置くよりも、より幅広い職業に着目する必要があると感じた。また、職業選択という観点においては、男性と女性を区別する必要はないのではないかと感じたため、本稿の分析では特に男女を分けて考えるということは行っていない。

また、小川・田中(1979)は親子間での職業の「継承」という部分に着目した論文を発表している。彼らは、子どもの親の職業に対する継承希望はほとんどの職業において有意に高く、継承志向性が認められること、また親から子どもに対する継承期待もすべての職業において有意に高く、さらにその継承期待が子どもの継承希望に影響を与えていることも明らかにしている。この研究はデータのサンプル数も 3,014 名と膨大であり、かつ親と子の双方に調査を行っていることから、ここで導き出された親子間の職業継承に関する結果は非常に信憑性が高いことがわかる。しかし、前述の通り時代の変化に伴って労働環境や働き方に対する価値観も近年で大きく変化している。この研究が行われた 30 年以上前と現代では、親子の関係性や子どもの親の職業に対する感じ方も大きく変わっていると推測される。それゆえ、新しくデータを取り直すことにも意義があると思われる。また、ここでの「継承」とは「親と全く同じ職業を志望すること」を指しているが、若者の職業選択が多様化している現代では、親と全く同じ職業を志望する割合は減ってきているのではないだろうか。しかしだからと言って子どもが親の影響を受けにくくなっているとも考えにくい。そう考えると、全く同じ職業でなくとも、同じ業界を志望したり、同じ給与水準を志望したり、継承の形も多様化してきているのではないか、と筆者は考える。本稿では、インタビューを通して細かくヒアリングを行うことで、そうした様々な継承の形を明らかにしていきたい。

最後に、矢島・寺田(2007)は父親の役割に焦点化し、父親の職業意識や子ども・学生との関わりの中身が学生の職業意識にどう影響するのかについて研究している。キャリアモデルという観点から、父親の存在は、比較的多くの場合子どもからプラスイメージとされていることを明らかにした点では、本稿のテーマに近いものがある。本稿ではさらに、

また、この研究では、父親と子どもに対して職業観（論文内では「仕事を続ける上で重要だと思うこと」＝「職業観」としている）を問い、双方の職業観が不一致の場合、父親が家庭で仕事の話をしないケースが多いことを発見している。つまり、子どもの職業観の形成における親子間でのコミュニケーションの重要性を明らかにしたのだ。職業観は、本稿で取り上げているモデリングの根源ともいえる。調査を通じてモデリングを解明する上で、この親子間でのコミュニケーションは重要な視点になると考えられる。

1-4.研究課題の設定

以上の先行研究をふまえ、本稿では以下の研究課題を設定した。

研究課題：職業選択という場面において、子どもの親に対するモデリング行動にはどのようなパターンが存在するのか。

仮説：(a)業界・業種、(b)金銭（給与水準）、(c)企業規模、(d)安定志向、(e)異動・転勤(f)勤務時間、(g)感情（親のことが好き、あるいは嫌い）の 7 つのポイントでモデリング行動が起こる
⇒最終的に(A)完全継承、(B)部分継承、(C)教訓、(D)反発の 4 つに分類できるのではないか。

上記仮説で示した、親子間でモデリングが起こるポイント（以下、モデリングポイント）の推測には、株式会社マイナビが『学生就職モニター調査』で調査した「企業選択のポイント」の項目を参考にした（図 2 参照）。この調査自体は、親子間でのモデリングを想定したものではないが、ここに含まれる諸項目に関して、子どもの側が意識的無意識的に、親からの影響を受けている可能性は高い。具体的に、本研究では、マイナビ調査の 19 項目のうちすべてを引用するのではなく、その中で親子間のモデリングに関係すると思われる以下の項目をピックアップした。

・給与や賞与が高い―(b)金銭として採用
・業界上位である―(c)企業規模として採用
・企業経営が安定している―(d)安定志向として採用
・希望する勤務地で働ける―(e)異動・転勤として採用

いずれも、親世代においてどのような状態であるかということが、子ども世代の生活に直接的に影響を与えるものばかりである。対して、例えば「成長できる環境がある」などは、働く個人（である親世代）にとっては重要であっても、子どもへの影響はないだろう。

（図 2）学生就職モニター調査「企業選択のポイント」

企業を選ぶときに、あなたが特に注目するポイント	順位	前年順位	ベスト3まで選択 全体 1,467	文系男子 253	理系男子 427	文系女子 348	理系女子 439	最も注目するポイント 順位	全体 1,467	前年順位
社員の人間関係が良い	1	1	36.7%	34.0%	27.2%	42.0%	43.5%	2	12.5%	1
福利厚生制度が充実している	2	4	31.4%	28.9%	26.0%	35.1%	35.1%	6	7.8%	7
自分が成長できる環境がある	3	3	29.4%	31.6%	33.5%	23.0%	29.4%	3	11.2%	3
企業経営が安定している	4	2	29.4%	31.2%	33.3%	26.7%	26.7%	1	13.0%	2
希望する勤務地で働ける	5	7	23.1%	18.2%	18.7%	28.4%	26.0%	4	9.3%	5
経営理念・企業理念に共感できる	6	5	22.6%	24.1%	18.0%	29.6%	20.5%	5	8.9%	4
企業の成長性が見込める	7	6	21.2%	24.1%	25.1%	17.0%	19.1%	7	6.8%	6
社会貢献度が高い	8	8	18.3%	25.3%	20.4%	15.5%	14.4%	9	6.0%	8
給与や賞与が高い	9	9	15.7%	17.4%	19.2%	14.4%	12.3%	11	2.4%	12
技術力がある	10	10	14.2%	1.6%	28.3%	1.7%	17.8%	8	6.2%	10
業界上位である	11	11	11.7%	15.0%	13.6%	10.9%	8.4%	10	4.6%	9
社員が親身に対応してくれる	12	13	7.4%	8.7%	7.7%	7.8%	6.2%	14	1.7%	17
国際的な仕事ができる	13	14	6.9%	10.7%	6.6%	10.1%	2.5%	12	2.2%	11
仕事を任せてもらえる	14	12	6.7%	9.5%	6.1%	5.7%	6.4%	13	1.8%	13
女性が活躍している	15	16	6.1%	0.0%	0.0%	11.2%	11.4%	16	1.5%	14
社員の話に説得力があった	16	15	5.7%	5.5%	4.7%	6.0%	6.4%	18	1.0%	18
商品企画力がある	17	18	5.1%	5.5%	4.2%	5.7%	5.2%	15	1.6%	15
平均勤続年数が長い	18	17	4.8%	5.5%	4.4%	5.7%	3.9%	19	0.3%	16
職種別採用がある	19	19	3.7%	3.2%	3.0%	3.4%	5.0%	17	1.2%	19

株式会社マイナビ,『学生就職モニター調査』参照

さらに、小川・田中(1979)の研究でも言われている「親子間で職業を継承」した場合のモデリングポイントとして(a)業界・業種を設定した。また、親の職業が何かということに関わらず、親に対する感情（好き・嫌い）もモデリングに影響していると考え、(f)感情というモデリングポイントを設定した。

さらに本稿では、最終的に(A)～(D)の 4 つのモデリングパターンに分類できると仮定している。まずは小川・田中(1979)の「親子間で職業をそのまま継承」したパターンを(A)完全継承とする。しかし筆者は、親子間での継承とは、イコール職業の継承だけではないと考える。「職業は異なるが、親の職業の一部分を継承」しているパターンを考慮し、(B)部分継承として仮定する。さらに、井上(2012)の研究にもあるように、モデリングには正転模倣だけでなく反転模倣も存在する。親を反面教師として職業選択したパターンを(C)教訓とし、ただ感情的な理由のみで反転模倣のモデリングをしたパターンを(D)反発と仮定する。

第 2 章：調査対象と調査方法

2-1.調査対象

今回の調査では親子間でのモデリング行動を細かく分類するため、調査協力者は自分の就職について、ある程度明確なイメージ・理想を持っている必要がある。筆者が思うに、そのイメージを具体的に整理する最も大きなタイミングが就職活動である。そこで、筆者が個人的に交友のある大学 3 年生 2 人と大学 4 年生 9 人の計 11 人にインタビュー調査を行った。調査協力者に収集に関しては、男女を混ぜたほか、志望業界にバラつきをもたせる、居住形態（実家・単身）を混ぜる工夫をし、サンプルに偏りがないようにした。調査協力者の 11 人をまとめたものが以下の図である。

（図 3）調査協力者の属性一覧

No.	仮名	性別	志望業種（内定先業種）	インタビュー実施日
①	NK	男性	IT・ソフトウェア	2016/11/17
②	SW	女性	IT・広告	2016/11/18
③	YD	女性	地方公務員	2016/11/18
④	MW	女性	製薬メーカー	2016/11/25
⑤	YK	男性	マーケティングリサーチ	2016/11/25
⑥	YT	男性	地方公務員	2016/11/25
⑦	AM	男性	IT・広告	2016/12/2
⑧	NS	女性	印刷	2016/12/2
⑨	KY	男性	広告、IT、メディア	2016/12/7
⑩	AO	男性	出版、IT、リゾート、公務員	2016/12/7
⑪	YT	男性	住宅メーカー	2016/12/9

筆者作成

2-2.調査方法

本稿の調査ではインタビュー調査を行った。今回の研究テーマである親子間でのモデリングを探るためには、そのモデリングに至った経緯や幼少期の家庭環境、親に対して抱く感情など幅広く深い情報が必要になる。またその情報を得るための質問事項は、調査協力者一人ひとりで異なると予想される。以上の 2 点より、今回の研究には質問票による調査よりもインタビュー調査が適していると判断した。

2-2-1.ヒアリングシートの配布

インタビュー調査の手順としては、まず初めに事前ヒアリングシートを作成し、調査協力者に回答してもらった。これは、インタビュー調査で全員に聞きたい質問の回答を事前に把握し、インタビューを円滑に進める目的がある。ヒアリングシートの内容は以下の通りである。

（図 4）ヒアリングシートの質問項目

基本データ	①　学部・氏名・学年
調査協力者本人について	②　志望（内定先）業界・業種
	③　②を志望した理由
	④　調査協力者の職業選択に影響を与えた人物、またその割合
	⑤　幼少期から将来の夢は変わったか（2 択）→（変わった・変わらない） 幼少期の夢は何だったか
	⑥　将来どんな生活をしたいか
調査協力者の家族について	⑦　自分の就職について親と話すか（2 択）→（話す・話さない） よく言われる言葉、印象的だった言葉
	⑧　兄弟姉妹の人数
	⑨　両親の職業
	⑩　⑨についてどんなイメージを持っているか（4 択） →（肯定的・どちらかといえば肯定的・どちらかといえば否定的・否定的） またその理由
	⑪　両親は日常的に自分の仕事のことを話すか（2 択）→（話す・話さない） またその内容

筆者作成

2-2-2.対面でのインタビュー

インタビューは、前項で示したヒアリングシートをもとに行った。インタビュー内容は調査協力者の任意に基づき録音し（11 人中 9 人のインタビューを録音）、同時にメモを取りながら進行していった。実際のインタビューでは、図 3 の質問に加えて、

・就職活動における譲れない条件（業界・業種、勤務地、給与水準、休日、など）
・その条件に思い至った経緯
・幼少期の生活
・兄弟姉妹の職業

など、インタビューの内容に合わせて質問項目を追加していった。インタビューにかかった時間は 1 人あたり 30 分から 60 分程度であった。

第 3 章：分析結果

合計で 11 人にインタビューを行った結果、モデリング（正転模倣・反転模倣）が起こるポイントとして、以下の 8 つが浮かび上がった。

(a)業界・業種：親の働く会社が属する業界・業種
(b)金銭：親の給与、金銭的に見た家庭の生活水準
(c)企業規模：親の会社の規模
(d)企業の堅さ：ワークスタイルの自由度
(e)安定志向：職業選択において安定（※２）を強く望む考え方
(f)異動・転勤：親の職業の異動・転勤
(g)勤務時間：親の勤務時間、または帰宅時間
(h)感情：職業選択に影響を及ぼすほどの、親に対する強い感情（好き・嫌い）

（※１） ワークスタイルの自由度について。一般的には、「スーツ出勤必須」や「業務手順の厳密性が高い」、公務員や銀行などの職業が堅さの程度が大きいと言われている。逆に、「私服出勤可」や「個人の裁量権が大きい」、広告業界や人材業界、ベンチャー企業全般は堅さの程度が小さいと言われている。

（※２）安定について。安定志向とは、「安定して給与を受け取ること」や「同じ企業で長く働くこと」、「将来性の高い企業に就くこと」を志向すること。

これらの全ての項目に関して、一つずつ正転模倣（＋）、反転模倣（－）、無関心（マーク無）のいずれかで判断を下した（カッコ内は分類結果の表における記載方法）。各人全ての項目を判定後、それらを総合して、一人ひとり最終分類を行った。

最終分類は、以下の 5 つが存在すると判断された（分類結果の表は 25-26 ページ参照）。

(A)完全継承：親と同じ職業に就く、または志望した場合
(B)部分継承：同じ職業ではないが、職業に対する考え方や条件等、一部分を継承した場合
(C) 教訓 ：親を反面教師にして職業選択を行った場合
(D) 反発 ：感情的な理由（親のことが嫌い）で親とは異なる職業を選択した場合
(E) 無関心 ：職業選択に親の影響が感じられなかった場合

ここで、本稿の分析に関する判断基準を示しておく。上記のモデリングポイントや最終分類の判断を下す際、優先したのは“筆者の主観”と“インタビュイーの職業選択に関する意思”である。“筆者の主観”とは、すなわちインタビュアーからの客観的視点という意味である。例えばインタビュイーがある事柄について「それは親の影響ではない」と言った場

合でも、彼らの発言から客観的に「それは親の影響によるものである」と判断できれば、筆者の判断を優先する。また“インタビュイーの職業選択に関する意思”とは、決定事項（内定先や、職業選択において親から与えられた条件）よりも本人の意思を優先するという意味である。例えば、親から実家に帰ってくるよう言われ地元への就職を決めたものの、インタビュイーとしては「本当は仕事で全国各地を回ってみたい」という希望があった場合、インタビュイーの意思を優先して判断を下す、という具合だ。

ここからは、最終的な 5 つの分類を、インタビューでの発言例を交えて説明していく。

3-1.(A)完全継承

完全継承とは、親に対する敬意の念や親の職業に対する肯定的なイメージから、親と同じ職業に就きたいと望む、または同じ職業に就いた場合を指す。今回の調査では、協力者 11 人中、⑪YT（住宅メーカー内定、男性）と②SW（IT・広告系内定、女性）の 2 人を完全継承に該当すると判断した。

3-1-1.⑪YT の場合

⑪YT（住宅メーカー内定）は、大手自動車メーカーに勤める父親と専業主婦の母親を両親にもつ男性である。YT を完全継承と判断した所以は、彼が企業選択の軸について述べた、以下の発言による。

YT：親父から、結構よく言われてたのが、なんかあの…日本ってやっぱモノづくりの国じゃん？だから「技術力が高かったり、ものをつくる力を持ってる会社が一番すごいよ、強いよ」ってことを言われてて、でやっぱり「一番そういうところがつぶれないし、技術力さえあればやっていけるから安定してるよ」ってことを言われてたから、安定性ってところでメーカーとか建設会社…（がよかった）。

筆者：じゃあ YT の中では、「モノづくりの会社＝安定」なの？

YT：安定って感じだった。「経済とかが傾いても、モノを作りさえすれば会社としてやっていける」っていう風にずっと言われてたから、結構昔から。あ、そうなんだ…っていうのが頭の中に入ってて…。

（中略）

筆者：（モノづくりの会社の中でも）絶対この業界がいいとかは、なかった？

YT：…は、特になかった。…あでもなんか、自動車に関わりたいなってちょっと思ってた。まあ、最終的に全然違ったけど。

筆者：そうだね…。なんで自動車がよかったの？

YT：それは、自分が結構車好きなのと、あとはまぁ父親が自動車関係だから。

筆者：安心感？

YT：そう、安心感みたいな。まぁ、安定に入るのかな。自動車がすごいなんか給料もらえ

てて、正月休み・お盆休みめっちゃ長いし…。

筆者：ああ、それを知ってるからね。

YT：そう、知ってるから。…夜は遅いんだけど。23 時、24 時に帰ってきてるんだけど、毎日。

筆者：そうなんだ。それは別にいいやって感じ？

YT：それは別にいいやって感じ。で、自動車関係受けてた。

（中略）

筆者：じゃあ、「安定＝大手」とかではないんだ？

YT：あ、まぁ大手もあった。だからメーカー×大手がもう、ど安定みたいな。ってことをもうずっと親父から言われてた。

上記の発言には「モノづくり」や「親父から言われてた」という言葉が複数回現れており、YT は就職活動でメーカーを選択する上で、父親の発言に強く影響を受けていることがわかる。最終的には住宅メーカーへの就職を決めた YT だが、「（父親と同じ）自動車に関わりたいと思ってた」という発言から、これは業界・業種の正転模倣と言うに十分であると判断した。また「安定」、「大手」という言葉も頻発しており、父親から安定志向・大手志向も受け継いでいると推測される。

さらに、YT は職業選択における金銭面（給与水準）に関しても、父親からの影響を感じさせる発言をしていた。それが以下のものである。

筆者：給料いい会社がいいっていうのは、何で？

YT：…何で？え、お金ほしいからじゃない？

筆者：裕福な暮らしがしたいから？

YT：ああ、そうだね。裕福な暮らしがしたい…そうだね。

（中略）

YT：あと、全然嫌味じゃないんだけど、うちの実家金持ちなんだよね。

筆者：そうなんだ…それを見てるから？

YT：そう、うちの実家金持ちで、結構裕福な暮らしだったから、（自分も）裕福な暮らししたいなっていう…同じように。

（中略）

YT：そうだ、年収、お金が良いとこがいいって言ってたのは、その、父親…ちょっと超えたいじゃん？年収とかって。ていうのがあって…

この会話から、YT は金銭的にも親と同じ水準を志向している、つまり金銭面を正転模倣しているということがわかる。

以上の発言より、YT のモデリングポイントは(a)業界・業種、(b)金銭、(c)企業規模、(e)

安定志向であり、全て正転模倣であることがわかる。最終的な結果（就職先）は違えど、本人の「自動車業界も志望していた」という意思を考慮すると、彼のモデリングは完全模倣に分類されると判断できる。

3-1-2.②SW の場合

②SW（IT・広告系内定）は、IT 企業に勤める父親と専業主婦の母親を両親に持つ女性である。SW は①YT とは異なり、就職活動において、親の働き方を完全継承しているとは言えない。ではなぜ、彼女を完全継承に分類したのか。その理由を発言とともに見ていこう。

筆者：(内定先を選んだのは)「好きなことを仕事にできるため」、「社員や職場の雰囲気が良く一緒に働きたいと思えたため」とありますが、いちばん大きな理由は一つ目？

SW：ほとんど変わらないかなと思います。両方とも大事にしてたところではあるので…。両方かなえられたから決めた、という感じです。

上記の発言をみると、SW は自分の関心や行動に基づいて就職先を決定したことが分かる。しかしその後、彼女は就職よりも先の将来に関して以下のような発言をした。

H：専業主婦モデルっていうのは、やっぱり家族として良いなっていうのはあったの？

SW：自分も母親が専業主婦なので、（仕事と両立して）子供とか育てる自信もないし、モデルとしてああなると幸せなんじゃないかなぁというイメージがあります。

（中略）

筆者：「幼いころから今に至るまで、将来の夢は変わりましたか？」っていうところで、「変わらない」っていうのは、昔から、なんかそういう IT とかに就きたかったっていうこと…？好きなことをやりたかった、みたいな？

SW：あ、えと…将来の夢が、真剣に「お嫁さん」を目指しています、私は。

筆者：じゃあ、もう昔からずっと専業主婦になりたいと思ってた…ってこと？

SW：うん、お嫁さんになりたいって思ってたから…専業主婦だね。

H：優先順位からすると、職業よりもそっちの方が、完全に頭の中の支配力が大きい？

SW：うん。3 年働いたらすぐ専業主婦になって、ママをするんです。

上記の発言では、SW が幼いころから専業主婦になることを志向し、その志向には自身の母親の姿が影響しているということがわかる。会話の中で「職業よりも専業主婦になることの方が優先順位が高い」と発言していることから、「（母親と同じ）専業主婦という職業が第一志望であった」と解釈した。以上より、(a)業界・業種を正転模倣しており、彼女も一種の完全継承であると判断した。

3-2.(B)部分継承

部分継承とは、親と同じ職業を選択してはいないものの、親の働き方の一部分を正転模倣している（受け継いでいる）場合を指す。

今回の調査では、③YD（地方公務員志望）と⑤YK（マーケティングリサーチ会社内定）を含む 4 人を部分継承と判断した。しかし、一言で部分継承といっても、親のどの部分を継承しているかは人によって様々である。さらに部分継承と判断した調査者のデータを見ていくと、彼らを「ライフスタイルに関する部分継承」と「ワークスタイルに関わる部分継承」に大別できることがわかった。以下では、ライフスタイルに関わる部分継承の例として③YD を、ワークスタイルに関わる部分継承の例として⑤YK をみていこう。

3-2-1.ライフスタイルに関わる部分継承（③YD の場合）

③YD（地方公務員志望）は、父母ともに教師の家庭で育った女性である。彼女はインタビューの中で、自身の職業観について以下のように語っている。

筆者：（ヒアリングシートを見て）これが職業を決める上での条件って感じ？
「安定してる」、「転勤がない」、「定時に帰れる」…

YD：「福利厚生がしっかりしてる」！安定っていうかなんか…あの、年功序列みたいな。
どんどん働いたら給料があがってくっていう…のが

筆者：堅実に稼げる…みたいな感じね。

（中略）

筆者：（給料が）あんまり低いのは嫌だ？

YD：うん。給料とかは、親…親が完全に影響してる、給料面とかは。

筆者：親が教師で安定してたからってこと？

YD：うん…。なんか、自分はわりと恵まれてるなと思ってて。なんか旅行もいっぱい連れて行ってもらったり、欲しいって言ったら、まぁ何とか買ってくれるし。ていうので、不自由だと思ったことがないから、それは両親が共働きしてるからだなっていうのを、大学になって気づいたから、じゃあ自分も将来家庭を持つぞってなったときは、そのぐらいの給料がほしいなって思って。よし、じゃあ共働きだ。で、共働きってなって…あの、子どももちゃんと育てたい。ってなったらやっぱ、「安定してる」、「規則正しい」、「定時で帰れる」、そして「給料が良い」のがいいぜっていう…完璧な、ね（将来設計）。

（中略）

筆者：私もそうだけどさ、仕事内容に対して「この仕事がしたいから、ここに行く」ってわけじゃなくて「こういう生活がしたいからここに行く」っていう感じ、だよね。

YD：そう。仕事内容はまぁ最悪あとから選んでもいいかなーぐらいだった。
親を見て、自分の生活を見て、「あ、じゃあこういう生活したい、将来」ってなったら、もうだって…

筆者：そのためには…
YD：逆算していった感じ！

上記の発言から、YD の中での優先順位は「家庭＞仕事」であり、「仕事は理想の家庭を叶え、保つための手段である」という考えを持っていることがわかる。そしてその「理想の家庭像」を形成するにあたって強い影響を与えたものは、彼女自身の家庭環境及び両親の存在であることがはっきりと読み取れる。仕事選びの基準に「転勤がない」、「安定してる」、「規則正しい（生活を送ることができる）」、「給料が良い」、を挙げていることからも、(b)金銭、(e)安定志向、(f)異動・転勤、(g)勤務時間は確実に親の働き方を継承していると言える。また、上記インタビューの冒頭部分から、彼女は「年功序列によって堅実にお金が手に入る」職業を志望していることがわかる。(e)安定志向とニュアンスは近いが、年功序列の制度が残っている伝統的で堅実な会社、という意味で(d)企業の堅さでも親を正転模倣していると判断した。さらに、両親の教師という職業と YD が志望する地方公務員は、企業規模という観点で見ると、どちらも公務員であり同等と言える。彼女が自身の経験から、「両親が公務員だとこの程度の生活ができる」と体感した上で、同じ道を選択しているということは、(c)企業規模も正転模倣と言って良いだろう。

ここまでを見ると、YD の最終分類は(A)完全継承なのではないかと言いたくなる。しかし、教師という職業に関して質問をしたところ、以下のような発言が返ってきた。

筆者：自分が（教師になる）って考えたら否定的？
YD：ああ、そうだね。自分がその職業就けって言われたら嫌だよ、ってなる…否定はする。
筆者：それはなんで？
YD：めっちゃ単純。子ども苦手だし教えるの苦手だしっていう…合わない、やってることが。仕事内容が合わない。
（中略）
筆者：親の姿を見てて、「大変そうだな」とかは思った？
YD：あ、小学校のころは思ってたよ。なんか、家に持ち帰って通信簿をひたすら書いてるとかね、長期休暇前は。あと、採点、丸付けしてたりして…
（中略）
YD：昔はでも、通信簿を手書きでずっと書いてる姿がほんとに大変そうだなと思って、ほんと小学校くらいの時は「通信簿書きたくないから教師になりたくない」ってずっと親に言ってた。
（中略）
YD：教師（という仕事）はみんな見てるから、みんな思ってることって一緒だと思う、大変そう、とか。楽しそうってイメージはなかったなぁ。
筆者：それをみて、自分もこの仕事したいとは思わなかった…？

YD：なんか、そんなに親が言うなら考えるか…って言って、小学校くらいの時に教師になる自分を想像したけど、無理だなってなった。

このように、YD は親の働く姿を見て、同じ公務員でも教師にはなりたくないと話している。よって、教師と地方公務員を（公務員と括らずに）別の業種と設定すると、(a)業界・業種では反転模倣であり、完全継承とはいえない。

以上より、YD のモデリングは(b)金銭、(c)企業規模、(d)企業の堅さ、(e)安定志向、(f)異動・転勤、(g)勤務時間の 6 つのポイントにおいて正転模倣、(a)業界・業種では反転模倣と判断した。そして彼女の場合、継承している部分がすべて「理想の家庭像（＝実家）の実現」という目的に繋がっていることから、最終分類はライフスタイルに関する部分継承といえる。

3-2-2.ワークスタイルに関わる部分継承（⑤YK の場合）

⑤YK（マーケティングリサーチ会社内定）は、自営業（イベント設営）の父親と、自営業（マーケティングや女性就業支援など）の母親をもつ男性である。彼はインタビューの中で自身の職業選択について以下のように語っている。

筆者：マーケティングに興味があったのは、いつから？
YK：これね完全に、親の影響だった。これは、うん。
（中略）
筆者：じゃあ…お母さんの姿を見て？
YK：そうだね。だから生活の中に、会社っていうものが当たり前にあったし、で、やんわりとさ、子どもながらに、マーケティングっていう言葉が…（染みついていた）。
筆者：じゃあ、物心ついたときから、興味があったって感じ？
YK：興味があったっていうか…なんか、やりたいっていうよりも、要は、これが…マーケティングとは何ぞやって言うことを、知ってたから…。だからそっから就職まではまだまだ時間があるけどさ、その一つの選択肢として…マーケティングとか経済とかそういうところに、若干興味が…この時期にできたのかなと思った。
（中略）
筆者：（影響を受けた人が）親 30%っていうのは…？
YK：親 30%っていうのは…じゃあ、その自分で考えた、興味のあるところ、まぁマーケティングの広告とか、あとは音楽っていうのも興味があった。ってなって、受けていったんだけど、よくよく考えてみて、母親はマーケティング会社、父親はイベント制作の音響とかやってる。もろじゃん、みたいな。ていうところで、意識して受けにいこうっていうか「お父さんと同じ会社がいい」とかってやったわけじゃないけど、結局同じようなところ受けてんだな、っていうところかな。

上記の発言にもあるように、YK は自己の興味・関心が無意識的に両親の職業に影響されていると述べている。幼少期から自営業を営む両親の仕事を間近で見ており、マーケティングや音楽に自然と関心の方向が向いていったのだろう。このことから、彼は(a)業界・業種の項目において親を正転模倣していると判断した。さらに、YK が親の影響を受けて志望した業界は、他の業界と比較して「絶対こうしなければならない」というルールがない、仕事内容に多様な方向性をもつ業界だ。つまり(d)企業の堅さという観点で見ると、YK は親の影響で、堅さの程度が小さい業界を継承しているともいえる。したがって、(d)企業の堅さに関しても正転模倣と判断した。

また、(a)、(d)以外の他の項目に関しては、以下のように話している。

筆者：（企業の選択軸として）給料と企業規模は（気にしてた）？
YK：あぁ…企業規模も考えてない。えっとね…大きいほうが良いなっていうのはあった。けど、別に小さいところも…うん。まぁ、中小を経営してるのが身近に二人いるから、だからどんなもんかっていうのは、ある意味中小の方がイメージはしやすいし…別に中小だからって悪いっていうことは全く思ってないから。だから大企業が良いって思ったのは、ある意味、若干対抗心みたいなのがあったのかもしれない…親に対する。
筆者：親よりも、いいところに…というか規模の大きいところにいきたい、みたいな？
YK：なんとなくね…うん。
筆者：給料は？
YK：そんなに…考えてない。あの…人並み以上の生活が出来れば、って感じだったかな。
筆者：めちゃくちゃ低くなければ、くらい？
YK：うん。

上記のように、YK に対して職業選択時の条件について質問したところ、 (c)企業規模に関しては若干親を意識している様子がうかがえた。下線部にもあるように、自営業の親に対する対抗心という、ある種の反発によるもののようだ。したがって、YK は(c)企業規模において反転模倣をしていると判断できる。

さらに、職業選択において最も重要視した部分について、以下のように語っている。

筆者：じゃあ、いちばん重視してたのは「自分のやりたいこと」って感じなんだ？
YK：そうだね。なんか、自分があんまり面白いと思わない…つまんないことをやって、金もらうよりも、面白いことやって…面白いことして、それで、ある程度の生活が出来ればいいんじゃないかな…とは思ってた。
（中略）
筆者：結構さ、話聞いた感じ、YK はお母さんに似てるのかなって思ったんだけど。

YK：性格って言っちゃえばそれまでなのかもしれないけど。なんだろうなぁ、やりたいことやるっていうか…たぶんこの、仕事とかやってる姿を見て、そんな全部が全部楽しいことやってるようにはさすがに見えないわけよ、大変なこともあるだろうし。なんだけど…なんかそれでもやりたいことやってる姿を見てるから、なんか自分も、同じように（やりたいことを追求したいと）思ったんじゃないかな。って思うし、…そんな楽しんでる姿を、自分の子どもに見せられたらいいんじゃないのって…。
だから就活中に、よくよく考えたら「あぁ実は、やっぱり影響受けてんだな」ってのはあったよ、親の。

筆者：どんなところで？

YK：この…考え方の部分で、結構あった。…働き方、生き方とか。

上記の発言から、YK は職業選択において「自分のやりたいことをやれる仕事」ということを第一に挙げている。そしてその根源には、やりたいことをやっていきいきと働いている母親の姿を幼少期から見続けており、自分もそんな大人になりたいという思いがあることがわかる。要するに、親の姿を見て芽生えた「理想の働き方」が、職業選択における彼にとっての最重要事項となっているのだ。

以上より、YK のモデリングポイントは(a)業界・業種、(c)企業規模、(d)企業の堅さの 3 つであり、(a)と(d)では正転模倣、(c)では反転模倣だということがわかる。しかし、前述の通り彼の場合は、母親から継承した「自己の興味・関心の追求」という仕事に対する姿勢が、職業選択における最重要事項なのである。そのため、モデリングポイントとして具体的な項目は設定していないが、ここでの正転模倣が、モデリングの度合いとしては最も大きいといえる。したがって、YK は「仕事に対する姿勢」＋2 つの項目において正転模倣、1 つの項目において反転模倣であり、最終分類は(B)部分継承といえる。さらに、正転模倣している項目が「仕事に対する姿勢」、(a)業界・業種、(d)企業の堅さであることを考慮すると、部分継承の中でも、ワークスタイルに関する部分継承と分類できる。

3-3.(C)教訓

教訓とは、親の働く姿をみて「自分はこうならないぞ」という意志を抱き、親を反面教師として職業選択を行うことである。ここで重要なのは、親に対する「好き・嫌い」の感情による反転模倣のケースとは異なり、あくまでも教訓として反対の道を選択しているということである。モデリングパターンで言うと、(g)感情以外の 7 つのモデリングポイントのうちいくつかの項目において反転模倣（－）を示しており、かつ当人のモデリング行動がそれらの項目でのみ見られた場合、またはその項目が他の正転模倣の項目に対して重要度が大きい場合を指す。

今回の調査では、④MW（製薬メーカー内定、女性）を含む 4 人が、最終分類で(C)教訓に分類されると判断した。この(C)教訓の例として、④MW の発言を以下に示す。ちなみに

④MW（製薬メーカー内定）は、自営業（電機製品）の父親と、教師の母親をもつ女性である。

筆者：（ヒアリングシートを見て）親（の影響）が 15%っていうのは、なに？

MW：…やっぱ、生きるうえでお金は大事だなと思って。あんまり、薄給のところにはいきたくなかった。それは…親の職業が関係してて。父が自営業って言ったけど、さっき言った通り、田舎の小っちゃい商店だから、ぶっちゃけ…あの、大きい電機屋さんあるじゃん、Y 社とか。そっち…若い人はみんなそっちに行って、正直、昔から買ってくれてる近所の人とか、ホームセンターに車がなくて買いに行けないおばあちゃんとか、うちは配達もしているから…あと修理とかもやってるから、そういうのしか仕事がこなくって。正直全然儲かってなくて、赤字の月とかもあって。
で、母は教師だから安定してて…まぁ別にめっちゃ高給取りとかじゃないけど。それでも毎月コンスタントに入ってくるし、ボーナスとか退職金もちゃんとあるから。母が公務員じゃなかったら、うちは、なんか私の大学とかも…3 人大学いってるんだけど、（兄弟）みんな。そんな経済状況じゃなかったと思うから。やっぱお金って大事だなって思って。

上記の発言から、MW は、景気や時代の流れの影響を直接受ける「自営業」を営む父親の姿と、公務員の一種であり給与が安定している「教師」である母親の姿を対比し、職業選択をする上でのお金（給与）の重要性を実感していることがわかる。「お金って大事だと思った」というワードを複数回述べていることからも、彼女にとってインパクトの大きい事柄であったことが推測される。それに対して、彼女は就職活動の軸として「薄給の仕事は嫌だ」と述べていることから、彼女は(b)金銭の項目において親（父親）を反転模倣しているといえる。

また、インタビューでは(e)安定志向に関する発言も見受けられた。それが以下のものである。

MW：なんか親…が、うちも結構ね、やっぱお母さんとか「安定した職業についてほしい」って言ってたから…それこそ自分と同じ公務員とか、金融とか推してたんだけど…（中略）

MW：なんか安定した職業で、やっぱ公務員推しだったんだよ、むこう（母）は。別に教師じゃなくてもいいから、地方公務員とか、国家公務員とか、すごい「お金良いよ」とか言われてて。

上記の発言をみると、MW が常日頃から母親に安定した仕事を薦められていたことが読み取れる。この母親の強い安定志向もあり、彼女は様々な場所で通用する資格を得られる製

薬業界を選択したのではないかと考えた。このことより、彼女は(e)安定志向において親（母親）を正転模倣していると判断した。

ここで、前述の③YD と同様の疑問が生まれた。母親から安定志向を受け継いだ彼女には、自分も教師になるという選択肢はなかったのだろうか。その疑問に対する回答が以下の発言である。

MW：（将来の夢を）ちゃんと考え始めたのは教師あたりから…
（中略）
MW：教師になりたかったのは、小 5・小 6 くらい。
筆者：教師（になりたかったの）は、なんでだっけ？
MW：教師は…なんかね…全然、親の影響、そんなにないとは…わかんないけど。個人的にはないと思ってて。なんか小学生の時に、友達に勉強教えることが多くて。で、そのときに、「教えるのって楽しいな」って思って…（以下略）
（中略）
MW：教師に関しては、金銭的に安定してるっていう…イメージはあったし、それについては肯定的だけど…やっぱ大変な親とかもいるみたいで、その話は聞いてて、それは大変だなと思って、そこについては否定的。だから完全に、肯定じゃないんだよね。“どちらでもない”がなかったから…どちらかと言えば肯定かな。…仕事内容も昔に比べたら増えてる上に、クレームつける親も多いし、大変だなとは思う。

上記の発言より、MW は安定した職業にこだわっているものの、仕事で苦労している母の姿を見て、教師になることは意図して避けていることがわかる。幼少期は教師を志したこともあったようだが、最終的に教師を志望しなかったのは、母親の姿を間近で見ていたことによる影響も大きいだろう。したがって、(a)業種・業界では反転模倣していると判断できる。

以上より、MW のモデリングポイントは(a)業種・業界、(b)金銭、(e)安定志向の 3 つであり、(e)では正転模倣、(a)と(b)では反転模倣であることがわかる。ここで、それぞれの項目のモデリング度合いについて、優劣を検討する。彼女の場合、就職活動における条件について「給与が良い」ことを第一に挙げていることや、インタビュー内で「金銭の重要性」の話が何度もあがったことから、3 つの項目の中で最もモデリング度合いが大きいのは(b)金銭の反転模倣であると判断した。さらに、(a)業界・業種の反転模倣も感情によるものではなく、教訓としての反転模倣である。したがって、彼女のモデリング行動において、重要度は(b)＋(a) > (e)と判断できるため、最終分類は(C)教訓となる。

3-4.(D)反発

反発とは、「仲が良くないから」「嫌いだから」という感情的理由で同じ道を歩むことを避

けるというモデリング行動のことを指す。インタビューを通じて(h)感情の項目において反転模倣（－）だと判断された場合、最終分類がこの(D)反発となる。今回の調査では、親に対する反発パターンは見られなかったが、②SW（IT・広告系内定、女性）の職業選択において、姉妹間での反発は確認された。姉妹間でこのパターンが存在するということは、親子間でも同様のケースが存在すると判断し、最終分類の１つとして加えた。SW のモデリングが(D)反発に該当すると判断した所以は、以下の発言にある。

筆者：お姉ちゃんって何の仕事してる？
SW：公務員。えっとね、税務署だね。（中略）
H：お姉ちゃんは影響ないの？反面教師って話だけど。
SW：だいぶありました。「死んでも公務員にはならん」って言って、就活始めて…。
筆者：なんでそれは、公務員は嫌だって思ってたの？
SW：お姉ちゃんが公務員だから、こいつと同じにはなりたくないって…。

上記の下線部の発言からは、SW の「公務員にだけはならない」という強い意志、さらにその理由が「姉と同じにはなりたくない」という個人的な感情によるものであることがわかる。したがって、SW は姉妹間において、(h)感情のモデリングポイントで反転模倣をしていることがわかる。そして、最終分類は(D)反発だと判断される。

3-5.(E)無関心

無関心とは、自身の職業選択において親を全く意識していない、かつ客観的にみても親からの影響が感じられない場合を指す。インタビューを通じて、(a)～(g)のどのモデリングポイントでも無関心（マーク無）と判断された場合、最終分類がこの(E)無関心となる。

今回の調査では 11 人中⑦AM のみ、最終分類を(E)無関心に該当すると判断した。⑦AM（IT・広告系内定）は自営業（建築会社）の父親と、教師の母親を持つ男性である。彼の最終分類を(E)無関心であると判断したインタビューでの発言を、以下に順に示していく。

筆者：この（求める）働き方とか、風土っていうのはさ、どんなこと？
AM：うーん、働き方は…えーっと、歯車じゃない感じ。自分で考えて仕事をすることができる、なおかつそれを許す企業風土。…歯車が嫌なんすよ、自分の力の影響力が、ある程度、波を立つような、レベル感がよかった。（中略）なおかつ、凝り固まった考え方じゃなくて、ある種、イケイケどんどんというか、だめなら変えればいいじゃんっていうのが良かった。逆にそれさえあれば、別にどんな会社に入ったとしても、気に食わなきゃ変えればいいじゃんっていう、スタンス。
（中略）
筆者：（就活において）これだけは譲れないみたいな、ここから下は切り捨てるみたいなの

ってあった？例えば…大手は切るとか。

AM：そうね、大手は切ってたね。（中略）

筆者：勤務地はどこでもいい？

AM：関東。これは、家庭の事情があって…（中略）

筆者：じゃあもしさ、この条件がなかったら…どう？

AM：なかったら…どうだろうね。なかったら、どこでもよかったかな。少し転勤があるのがよかったかな、むしろ。知らない土地に行くのが好きだから。

筆者：勤務時間は？

AM：…若いうちは、とりあえずなんでもいいかなって感じ。残業もほどほどにあっていいんじゃないでしょうか。（中略）

筆者：給料は？

AM：給料はねぇ、うーんまぁ…ある程度あればいいかなっていう…なんだろ、将来的には、ある程度収入は欲しいわけですが、なんだろ、初任給で切るとかはしてない…です。

上記の発言から、AM は職業選択において「働き方」や「会社の風土」を最重要視しており、具体的な条件は、企業規模と勤務地しか設定していないことが読み取れる。これらは本稿の分析で示すモデリングポイント(a)～(h)でいうと、(c)企業規模と(f)異動・転勤に当てはまるが、この 2 つの条件も、(c)は彼自身の意思であるし、(f)も家庭事情による縛りがなければどこでも良いと述べている。

また、このインタビューでは、(h)感情にまつわる以下のような発言もみられた。

AM：（大学選びは）家を出たい一心。

筆者：え、家出たかったの？

AM：そうだよ。だからわざわざ、（地元の）T 大じゃなくて Y 大にした。

筆者：（実家を離れている）お兄ちゃんを見てそう思ったのかな？

AM：家を出たい一心？…家を出たい一心は、まぁ、うちがあんまり好きじゃなかったからなぁ。（中略）超絶嫌いではなかったけど、ちょっと嫌いで、出たかった。まぁ実家にいるといろいろしがらみがあるじゃないですか。…

（中略）

筆者：改善されたの？ここの（家族との）関係性は。

AM：もちろん、もちろん。たまに帰ると…あのね、離れると、大事ってわかるよね。偉大だったし。

上記の発言から、AM は大学入学以前、親に対して反発的な感情を抱いていたことがわかる。この発言から(h)感情の反転模倣も推測されたが、職業選択時には親との関係性は改善されていたとあるため、これには該当しないと判断した。

ここまでの発言で、AM の親に対するモデリング行動が確認されなかったため、次は両親の職業に対するイメージを直接聞いてみた。インタビュー前のヒアリングシートでは、親の職業に対するイメージとして「どちらかといえば否定的」と回答し、その理由を以下のように述べている。

力仕事は嫌いだったし、先生は割に合わないほどに激務ですから。でも、今ではどちらの仕事も、良い仕事だとは思います。自分がやりたい、というわけではないですが。

この回答だけを見ると、AM は「自分が（両親と同じ仕事を）やりたいというわけではない」と回答しており、(a)業界・業種における反転模倣の可能性も推測される。インタビュー内で詳しく話を聞いてみると、彼は以下のように発言した。

筆者：その（両親の）仕事はいい仕事だなとは思うけど、自分がやりたいとは思わない？

AM：うん、当時、高校生の時は。…今は、あの、就活してるような時期になったら、まぁ良い仕事だとは思うけど、(★)俺はやりたい…ことではないし、できることでもないな、っていう。高校生の頃は、父親のその現場の仕事とか手伝いとかあったんだけど…（中略）それが力仕事系。だから力仕事が嫌だった。

筆者：じゃあ結構、その…お父さんの仕事に対してさ、具体的なイメージを持ってたんだね。この仕事は、こういうことするんだ…みたいな。

AM：まぁ、結果としてはそれは勘違いなんだけどね。それ（力仕事）がメインじゃないから。職人に頼むのが仕事のほうだから。現場監督のほうだから。（手伝いを通して）その仕事の一端を担ってたんだけど、その一端しかなかったから、高校生の時は嫌いだった。

（中略）

AM：で、母親の方も手伝ってたんだけどね。丸付けして…とか、テストの採点とか。（中略）でも、教員にはなりたいとは思わなかったね…(★)ほんと教育も興味なかったしね。

上記の前半部分の発言をみると、AM は大学入学以前、親の職業に対して否定的なイメージをもっていたものの、職業選択時にはそのイメージは改善されていることがわかる。さらに、下線部(★)マークの「やりたいことではなかったし、できることでもない」「ほんと教育も興味なかった」にも表れているように、AM が両親と同じ職業を避けたのは、(C)教訓的な避け方ではなく、純粋に興味をもてなかったからだと読み取ることができる。したがって、AM は両親と同じ職業は避けたものの、(a)業界・業種の反転模倣には当てはまらないと判断した。

以上より、AM は(a)～(g)のいずれの項目においてもモデリング行動は確認されず、最終

分類は(E)無関心であると判断した。

以上、(A)完全継承、(B)部分継承、(C)教訓、(D)反発、(E)無関心の 5 つが本稿の調査で導き出された、子どもの親に対するモデリングパターンである。

3-6.追加分析

追加分析として、研究課題や仮説の段階では想定していなかったが、興味深い発見事実があったのでここで掲載しておく。

今回の調査で判明した(A)～(E)の 5 つのモデリングパターンであるが、これらの各パターン内では、サンプル同士で特に共通点や傾向は見られなかった。しかし、最終分類の前段階である(a)～(h)のモデリングポイントに着目すると、そのポイント内でいくつか共通点があることがわかった（図 5 参照）。

（図 5）モデリングポイント内の共通点

モデリングポイント	該当者	モデリング対象の職業	モデリング対象の共通点
(a)業界・業種／反転模倣	①NK	保険会社－母	3／5 人が専門職（教師 2 人、自営業 1 人）
	③YD	教師－両親	
	④MW	教師－母	
	⑥YT	測量器メーカー（技術職）－父	
	⑩AO	自営業（建設）－両親	
(b)金銭／正転模倣	③YD	教師－両親	大規模、堅い
	⑪YT	自動車メーカー－父	
(d)企業規模／正転模倣	③YD	教師－両親	大規模
	⑥YT	鉄道会社（パート）－母	
	⑧NS	商社－父	
	⑪YT	自動車メーカー－父	
(e)安定志向／正転模倣	③YD	教師－両親	大規模、堅い
	④MW	教師－母	
	⑪YT	自動車メーカー－父	

筆者作成

まずは(a)業界・業種における反転模倣について。小川・田中(1979)は、専門的・技術的職業は親子間での職業継承率が特に高いと述べているが、本稿の調査では(a)業種・業界で反転模倣を示した 5 人のうち 3 人は専門的・技術的職業（教師 2 人、自営業／建築 1 人）に対してであった。(b)金銭に関しては、2／11 人が正転模倣を示した。この 2 人が正転模倣

を示した職業はそれぞれ教師、大手自動車メーカーであり、「大規模」、「堅い」という共通点が見受けられる。次に、(d)企業規模に関して。この項目で正転模倣を示したのは 4／11 人であり、全員が「大規模」に対する正転模倣という点であった（それぞれ教師、商社、鉄道会社、自動車メーカー）。最後に、(e)安定志向に関して。この項目に関して正転模倣を示したのは 3／11 人であり、全員が「大規模」、「堅い」企業に対する正転模倣であった（教師 2 人、自動車メーカー1 人）。

ここまで各ポイントの共通点を見てもわかる通り、(b)金銭、(d)企業規模、(e)安定志向での正転模倣に該当した人物は重複するところが多く、この 3 つは非常に関連性が強いことが分かる。さらに、これら 3 つの項目を正転模倣している人物は、職業選択において「自分のやりたいことができるか」というワークの部分よりも、「どういう生活をするか」というライフスタイルを重視する傾向にあることもわかった。

	本人	居住形態		父	母	兄弟姉妹		インタビュー時間
①NK	IT・ソフトウェア	単身		修理会社(電機)	主婦(本人幼少期) →様々な職を転々	姉:養護教諭		約60分
②SW	IT・広告	実家		IT	主婦			40分23秒
③YD	地方公務員	単身		教師	教師	兄:サラリーマン		49分30秒
④MW	製薬メーカー	単身		自営業(電機)	教師	兄:サラリーマン 姉:保育士→主婦		39分1秒
⑤YK	マーケティングリサーチ	実家		経営者(イベント制作)	経営者(マーケティング、 女性の就業支援)	弟		52分57秒
⑥YT	地方公務員	実家		測量器メーカー(技術職)	主婦(パート勤め)			35分32秒
⑦AM	ネット広告	単身		自営業(建築設計)	教師	兄:公務員		46分58秒
⑧NS	印刷	実家		商社	航空→通訳ガイド	弟		60分45秒
⑨KY	広告、IT、メディア	単身		自営業(飲食店)	自営業(アパレル)			約60分
⑩AO	出版、IT、リゾート、公務員	単身		自営業(建設)	主婦(自営業事務)	姉:美容師 姉:ホテル		46分44秒
⑪YT	住宅メーカー	単身		自動車メーカー(技術職)	主婦	姉:化学メーカー(技術職) 姉:電機メーカー(技術職)		28分16秒

	(a)業界・業種	(b)金銭	(c)企業規模	(d)企業の堅さ	(e)安定志向	(f)異動・転勤	(g)勤務時間	(h)感情
①NK	−	−			−	−		
②SW	＋							(＋)
③YD	−	＋	＋	＋	＋	＋	＋	
④MW	−	−			＋			
⑤YK	＋		−	＋				
⑥YT	−		＋			＋	−	
⑦AM								
⑧NS			＋					
⑨KY				＋				
⑩AO	−							
⑪YT	＋	＋	＋		＋			

	(A)完全継承	(B)部分継承	(C)教訓	(D)反発	(E)無関心
①NK			○		
②SW	○			(○)	
③YD		○			
④MW			○		
⑤YK		○			
⑥YT			○		
⑦AM					○
⑧NS		○			
⑨KY		○			
⑩AO			○		
⑪YT	○				

第 4 章：考察・結論と含意

4-1.考察

分析結果について考察する前に、第 1 章で示した本稿の研究課題、並びに第 3 章の分析結果を再度確認しておく。研究課題と仮説、それに対する結果は以下の通りである。

研究課題：職業選択という場面において、子どもの親に対するモデリング行動にはどのようなパターンが存在するのか。
仮説：(a)業界・業種、(b)金銭（給与水準）、(c)企業規模、(d)安定志向、(e)異動・転勤、(f)勤務時間、(g)感情の 7 つのポイントでモデリングが起こり、
最終的な分類は(A)完全継承、(B)部分継承、(C)教訓、(D)反発の 4 つが存在する。

分析結果：モデリングポイントは全部で
(a)業界・業種、(b)金銭、(c)企業規模、(d)企業の堅さ、(e)安定志向、(f)異動・転勤、(g)勤務時間、(h)感情　の 8 つが存在する。
最終的なモデリングパターンは以下の 5 つが存在する。
(A) 完全継承、(B)部分継承、(C)教訓、(D)反発、(E)無関心

追加分析結果：
(a)～(h)のモデリングポイントに注目すると、それぞれのポイントの該当者間で、
いくつか共通点がある。

4-1-1,新たなモデリングポイントの発見

仮説では、マイナビのモニター調査をもとに 7 つのモデリングポイントを設定したわけだが、分析を通して、想定していなかった新たなポイント発見した。それが(d)企業の堅さである。この項目で正転模倣に該当した⑨KY のインタビューによれば、「両親が二人ともスーツで出勤しない職業だったため、自分も将来スーツを着て会社に行く（ような堅い会社に勤める）イメージが持てない」とのことであった。たしかに、子どもにとって毎日目にする「親の仕事着」は、仕事というものに対するイメージに強く作用するのかもしれない。また、この項目で正転模倣を示した人物は⑨KY と⑤YK の 2 人であったが、この 2 人はどちらも両親が自営業である。日頃から親の仕事が自分の生活の身近にあったことから「仕事とはこういうものだ」という刷り込みが強く、（企業の堅さという意味で）親と同じ系統の志望する傾向にあると推測した。

4-1-2.(E)無関心というパターンの存在

さて、(A)完全継承、(B)部分継承、(C)教訓、(D)反発の 4 つに関しては仮説の通りであったが、(E)無関心の存在は予想の範囲外であった。(E)無関心を予想していなかったのは、親は子供にとって、最も身近な社会人モデルであると確信していたからだ。子どもは職業選択の場面に至るまで（今回は大学生に限定しているため）少なくとも 18 年～20 年ほどは親と共同生活をする。これほど長い期間生活を共にするのだから、多かれ少なかれ親の影響はあって当然だろうと考えていたのである。

⑦AM（=(E)無関心に該当）のインタビューを通じて、このパターンの存在には、親子間の感情的反発やコミュニケーション不足が関係していると考えた。AM は大学入学以前、親に対してマイナスの感情を抱いており、それゆえ大学入学を機に実家を出たと発言している。この物理的距離もあり、就職活動時はほとんど彼自身の就職に関して親に相談しなかったようだ。彼の場合、共に生活していた時には感情的反発があり、その状態のまま距離が生まれ、職業選択のタイミングが訪れたということになる。それゆえ、親を社会人としてのモデルにするという感覚が生まれにくかったと推測される。

4-1-3.追加分析に関して

第 3 章の追加分析に関して、それぞれのモデリングポイント内で見られた共通点について考えていく。

まず、(a)業界・業種で専門職への反転模倣が多かったことについて。これは、時代の変化に伴う職業へのイメージの変化によるものであると推測する。教師に関しては、昔より給与が減っている上にモンスターペアレントなど保護者問題も増えていることが理由として考えられる。子どもとしては、割に合わない仕事量、対人関係の問題を間近で見ることで、教師という職業に抵抗が生まれやすいのだろう。自営業／建築に関しては、昔に比べて力仕事に対する抵抗が大きくなっているのでないかと考える。自営業のため実際の現場を目にすることも多く、どうしても「建築業＝力仕事」ばかりだととらえられやすいのだろう。

続いて(b)金銭で「大規模」や「堅い」企業への正転模倣が多かったことについて。2 人ともインタビューの中で「自分が恵まれた生活をしていたことを自覚しており、自分も同じようになりたい」と発言していた。このことから、親が「大規模」や「堅い」企業に勤めていると、子どもは自分の生活水準に満足しやすく、職業選択の軸を生活充実の方向に向ける傾向があることがわかる。

次に(d)企業規模で「大企業」への正転模倣が多かったことについて。これは想像がつきやすい結果とも言えるが、大規模企業はテレビ CM 等の広告にも力を入れられる分、日頃から企業名が耳に入りやすい。それゆえ、親が大規模企業に勤めているとなると、親に対する憧れの念を抱きやすくなり、正転模倣の傾向が強く表れると考えた。また、親としても大規模企業に勤めているという立場から、子どもにも大規模企業を勧めるケースも多いのではないだろうか。

さらに(e)安定志向で「大規模」「堅い」企業への正転模倣が多かったことについて。この安定志向は、子どもサイドが親の姿を見て自発的に志向する場合もあるが、親サイドで強い安定志向や安定した職業への推奨があり、子どもがそれを受け継いでいる場合の方が多く見受けられた。「大規模」で「堅い」企業に勤める親は、自身の生活が安定していることで、子どもにも同じように安定した生活を送ってほしいという思いが強いのであろう。そうした思いが日々の言動に表れ、子どもにも安定志向が受け継がれているのだと思われる。

第 3 章でも述べたが、(b)金銭、(d)企業規模、(e)安定志向での正転模倣に該当した人物は重複するところが多く非常に関連性が強いこと、また彼らは職業選択においてライフスタイルを重視する傾向にあることも判明している。これは、「生活の安定」というのは主に金銭面の安定を指していること、さらに一般的に給与は大企業の方が高い傾向が関係しているといえる。つまり企業規模の大きさ→給与の安定→生活の安定という流れがあることで、これら 3 つの項目に強い関係性が生まれているのだろう。

4-2.結論

親子間のモデリングに関して、モデリングが起こりうるポイントは(a)業界・業種、(b)金銭、(c)企業規模、(d)企業の堅さ、(e)安定志向、(f)異動・転勤、(g)勤務時間、(h)感情の 8 つが発見され、最終的な分類は(A)完全継承、(B)部分継承、(C)教訓、(D)反発、(E)無関心の 5 つに分かれることが判明した。また、親が「大規模」や「堅い」企業に勤める子どもは、職業選択においてライフスタイルの充実を意識し、給与の高さや企業規模を重視する傾向にある。

4-3.理論的含意

第 1 章でも示したように、これまで「職業選択における親が子どもに与える影響」に関して、様々な観点から研究がなされてきた。角田(2010)は親のライフスタイルの違いによる専業主婦家庭志向の差異を明らかにし、小川・田中(1979)は職業別に見た親子間での職業継承に迫っている。要するに彼らは、「親が子に与える影響」を「特定の職業の継承（＝親子が全く同じ職業に就くこと）」という部分に絞って研究を行っているのだ。それに対して本稿では、子どもが親をどのようにモデリング（＝模倣）するかという観点から、「影響＝継承」とせずに、「影響＝完全継承、部分継承、教訓、反発」と「影響」という言葉に幅を持たせている。さらに、その幅を明確に分類し、パターンとして示している点でも新規性があるといえる。

4-4.実践的含意

本稿の調査を通じて、やはりほとんどの子どもは、何らかの形で親をモデリングしていることが分かった。その中でも印象的だったのは、親の日々の言動が、子どもの職業観を左右しているケースがいくつか見られたことであった。基本的に、子どもはどの家に生まれたか

に関わらず、職業選択は自分の意思に基づいて自由に行われるべきだと、筆者は考える。子どもの職業選択に与える親の影響が明白になった以上、子どもが職業選択のタイミングに至るまでの期間、キャリア教育は親が積極的に行うべきであると考える。具体的には、「世の中にはどのような職業があるのか」「どの職業が社会の中でそれぞれどんな役割を果たしているのか」ということを幼少期から子どもに教えることで、子どもの職業選択の幅を広げることが有効であると思われる。

4-5.今後の課題

本稿の調査では、調査協力者を収集した際に「男女を混ぜる」「志望業種に偏りをなくす」「居住形態（実家・単身）を混ぜる」等の配慮をした。しかし同一大学の同一学部内でサンプルを集めたことから、どうしても学力レベルや文系・理系の部分で偏りが出てしまっている。今後は大学や学部の枠を超えて調査し、さらに良質なデータを集めて分析したい。

参考文献一覧

・井上達彦(2012),「模倣戦略のタイポロジー」,『早稲田商学』,第 431 号, 607 頁 - 631 頁。

・角田早紀(2010),「親のライフスタイルによる子どものライフスタイルへの影響
: 母親の働き方が子どもの働き方に与える影響」,『授業実践開発研究』,第 3 巻,83 - 87 頁。

・小川一夫・田中宏二(1979),「父親の職業が息子の職業選択に及ぼす影響に関する研究」,『教育心理学研究』,27 巻？,45 - 54 頁。

・矢島修平・寺田盛紀(2007),「大学生の職業観の形成における父親の影響 : 愛知県内の大学 3 年生へのヒアリングと父親へのアンケート調査を通して」,『生涯学習・キャリア教育研究』,第 5 号,55 - 59 頁。

・株式会社マイナビ(2016),『2017 年卒　学生就職モニター調査』https://saponet.mynavi.jp/（2017 年 1 月 16 日アクセス）。